



## 真珠はどうして貝の中でできるの

### 真珠は貝の殻と同じ

よく見るアワビやカキの殻の内側は、光のぐあいで、ブルーやピンクが混じって見える白い真珠色をしています。この殻の真珠のような内側は、次のようにしてできます。貝のえらや外とう膜から吸収されたカルシウムが、貝の体内で分泌液になり、外とう膜から少しずつ分泌され、特別のたんぱく質の層と、炭酸カルシウムの結晶の層が何層も重なって、できていきます。

### 人工的に真珠を作らせたのは日本人が最初

海の中で、ぐう然、小さい砂のようなものが、貝の外とう膜につきささったりしたとき、貝が砂のまわりを分泌液でくるみ、貝殻を作るようにして真珠層ができ、天然の真珠ができることがあります。

これを見て、研究を重ね、人間が貝の体の中に丸い玉(貝殻を原料にしたもの)を入れ、まん丸い真珠を作らせることに初めて成功したのが、日本の御木本幸吉です。

### 真珠が作れる貝は1000種以上

貝殻の内側が真珠色をしている貝なら、たいてい真珠ができるので、天然真珠を作れる貝は、海や湖にいるものを合わせると、1000種類以上になるといわれています。

でも、まん丸で、きれいな色の真珠を作る貝となると、海ならアコヤガイ、クロチョウガイ、シロチョウガイ、マベガイ、湖ならイケチョウガイなどになります。

(監修・安部 義孝)

